

2-11

デイサービスの新たな機能の拡充を目指して

東京都在宅難病通所サービス利用支援モデル事業の実施を通じて

多職種共働

個別ケア

デイサービス、信愛^{しんあい}デイケアセンター

相談員 村山 暁

清瀬市梅園 2-5-9

信愛訪問看護ステーションほほえみ

上村 貴代美

TEL 042(492)5353

E-mail

FAX 042(492)1589

URL

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

今回取り上げた東京都の新規モデル事業は、在宅に暮らしている難病の利用者に対して、通所サービスを提供することにより、医療的ケアやきめ細かな介護サービス等を通じ、生活の質の向上を支援することを目的に実施する事業で、当センターを中心とした医療系サービスとの共同で取り組むことがその特徴でもある。

〈取り組んだ課題〉

1. 自立から医療的ケアを要する重度の利用者まで幅広く受け入れることにより、幅広く在宅の要援護者のニーズに対応できる。
2. 医療と介護のケアの連続性を確保することにより、心身両面にわたっての統合的なケアを提供できる。
3. 閉じこもりがちな在宅の重度難病利用者に対して、通所による社会関係の構築や生活の質の向上を支援できる。

〈具体的な取り組み〉

1. 事業実施(平成19年4月)前の、半年前より介護保険の療養通所介護実施に向けたプロジェクトを当センター並びに併設の訪問看護ステーションと検討
2. 東京都の新規モデル事業の情報提供があり、都担当者からの事業説明を受け、総合的に検討のうえ、当事業への申込を決定する。
3. 事業実施に向けて、受け入れのためのスペース、備品関係、人材の確保の面から検討
4. 人材は、訪問看護ステーションの看護師と当センターの看護師とのコラボレーションにより事業を担当する。(健康チェック、医療的処置、看護計画作成等)
5. センターの介護職員は、送迎業務、入浴介助、アクティビティの提供等を、相談員は利用相談の窓口や通所者の相談業務に当たる。
6. スペースは、80㎡ほどのフロアーにベッド5台、床頭台やテレビ、記録用の事務デスク、パーティションを設置。
7. 備品は、原則として家族対応(酸素、人工呼吸器等持参)当センターとして、酸素、吸入器、アンビューセット等備え付ける。※備品等の購入費は200,000円

〈活動の成果と評価〉

1. デイケア職員の意識改革と重介護者への介護技術についての理解の促進(事前の勉強会の開催、ベッド→ベッド移乗の実施、機械浴の実施による重介護者への介護技術の習得、難病に関する勉強会等の実施)
2. 法人内多職種(他事業所)共働による取り組みで事業実施することにより、連携手法の確立と医療的ケアと介護ケアの総合的サービス提供につながった。
3. 登録者3名に対して、入浴ケアやその他の介護ケアの提供により感染症、誤嚥、褥創等の予防につながった。
4. ベッドサイドの機能訓練や軽微なアクティビティの実施による心身機能の維持が図れている。
5. 他利用者との交流による参加意識の向上と意欲面での改善が見られた。
6. 都神経科学研究所(神経研)との連携、助言のもとで、医療的なケア(吸引、吸痰等)の実践や難病に関する知識の習得の機会につながった。
7. 都所管、神経研、所管保健所、訪問看護チーム、当センター合同のカンファレンス等による、難病利用者の通所サービスや地域ケアのあり方について、継続的な検討の場が設定された。

〈今後の課題〉

1. モデル事業のため事業終了後の同種事業の継続の問題(療養通所介護への切り替え等の検討)
2. 利用者の拡充とスムーズな受け入れのための人的な配置も含めた環境整備
3. 他法人の訪問看護ステーションの利用者に受け入れについてのシステム化
4. 様々なアクティビティ活動の参加と他者との交流による在宅生活へのフィードバックの促進
5. 介護職員の担うべき業務の明確化と役割の強化